

# 行是

自分にきびしく  
人には親切  
社会につくす

## CSR 憲章（経営理念） 2007年4月制定

私たちは、伝統ある近江商人の  
「三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）」の  
精神を継承した行是  
「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」を  
CSR（企業の社会的責任）の原点とし、  
社会の一員として「共存共栄」を実現してまいります。



### 地域社会との共存共栄

地域とともに歩む銀行として、  
お客さまの信頼と期待にお応えするため、  
「健全」と「進取」の精神を貫き、地域社会の発展に努めます。



### 役職員との共存共栄

役職員一人ひとりの人権や個性を尊重し、  
働きがいのある職場づくりに努め、  
心身ともに「クリーンバンクしがぎん」の実現に努めます。



### 地球環境との共存共栄

琵琶湖畔に本拠を置く企業の社会的使命として  
「環境経営」を実践し、地球環境を守り、  
持続可能な社会づくりに努めます。

# CONTENTS

Top Message	3
取締役頭取 高橋祥二郎	
“しがぎん”について	
“しがぎん”のあゆみ	10
“しがぎん”の強み	12
社外からの評価・社外への賛同	13
財務ハイライト	14
ESG ハイライト	16
気候変動・地球温暖化への対応	18
責任銀行原則の取り組み	26
価値創造のための挑戦	
リスクと機会	32
価値創造ストーリー	34
サステナビリティビジョン（長期ビジョン）	36
第7次中期経営計画	38
基本戦略① SDGs をビジネスへ	40
ESG 地域金融を通じて ネイチャーポジティブな経済を目指す	
基本戦略②地域社会の生産性向上	44
対談：地域社会のデジタル化 ～地域の活性化とデジタル化の取り組みを考える～ 対談者：株式会社日本総合研究所 理事長 翁百合氏	
基本戦略③課題解決型金融情報サービス業への進化	54
野の花賞受賞者座談会 ～未来に花開くビジネスを地域から生み出す～	
基本戦略④持続可能な収益構造への転換	62
経営資源を一元化 「運用力強化に向けたファイナンス室の取り組み」	
基本戦略⑤考働改革（考え方改革、働き方改革）	66
ダイバーシティ&インクルージョンへの取り組み ～ダイバーシティ推進チームの活動から～	
価値創造を支える力	
コーポレート・ガバナンス	72
社外取締役メッセージ	76
資本政策	79
役員・執行役員	80
ステークホルダーコミュニケーション	82
リスク管理	84
コンプライアンス（法令等遵守）の取り組み	90
コーポレート・データ	92

## 滋賀銀行ディスクロージャー方針

### 1. 基本的な考え方

当行は、地域金融機関としての社会的責任と公共的使命のもと、透明性の高い情報開示を目指し、お客さま、株主、投資家、地域社会等をはじめとするすべてのステークホルダーの当行に対する理解を促進し、適正な評価に資するため、継続的に、公平かつ正確な情報開示を適時・適切に行ってまいります。

### 2. 開示する情報

当行は、銀行法・金融商品取引法等の諸法令および東京証券取引所が定める「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示等に関する規則」等（以下「適時開示規則等」という）に従い、経営情報の開示を行います。

また、諸法令や適時開示規則等が定める重要事実に該当しない情報であっても、ステークホルダーにとって有用であると判断される情報については、可能な限り公平かつタイムリーな情報開示を行います。

### 3. 情報開示の方法

諸法令および適時開示規則等で開示が求められている情報については、その定めに従い適時・適切に開示を行うほか、当行ホームページへの掲載等を通じて行います。

また、これら以外の自主的に開示している情報についても、適切な方法により、公平性や有用性の高い情報開示を行うよう努めます。

### 4. 情報開示の手続および体制

当行は、「経営関連情報開示規程」を制定し、総合企画部を経営関連情報開示統轄部署と定め、適時・適切な情報開示を行うための手続および体制の整備・充実を図っています。

また、情報の適正性を維持するため、必要に応じて監査法人などの専門家と協議を行うほか、適切性や有効性を定期的に検証いたします。

### 5. 将来予測に関する記述について

当行ホームページや統合報告書に記載されている情報には、当行その他グループ会社の財政状態および将来予測に関する記述が含まれています。これらの将来予測の記述は、将来の業績等が記述どおりに達成されることを保証するものではなく、一定のリスクや不確実性が含まれており、今後の経営を取り巻く環境の変化などにより、実際の結果と必ずしも一致するものではありません。

## 統合報告書の発刊にあたって

滋賀銀行は、このたび「SHIGA BANK REPORT 2022(統合報告書)」を作成いたしました。本統合報告書は、国際統合報告評議会(IIRC)が提示する「国際統合報告フレームワーク」および経済産業省の「価値協創ガイダンス」を参考にして、財務情報に経営理念・戦略・ESG情報(環境・社会・ガバナンス)などの非財務情報を関連付け、当行ならびに地域社会の持続可能な価値創造の仕組みを統合的に編集しています。また、本報告書は、銀行法第21条に基づくディスクロージャー資料(業務および財産の状況に関する説明書類)を兼ねています。ディスクロージャー誌としてご利用の際は、本報告書、および情報編(当行ホームページ<https://www.shigagin.com/>に掲載)、「SHIGA BANK REPORT 2022財務データ・パーゼルⅢ第3の柱開示編」(同)をあわせてご参照ください。

なお、本統合報告書は、当行の「ディスクロージャー方針」に従った適切な開示が行われていることを経営陣等が確認しています。

Environment  
Social  
Governance

価値協創  
ガイダンス

## 見通しに関するご注意

本統合報告書には、当行に関連する業績予想および計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、本資料作成時点における入手可能な情報および将来の業績に影響を与える予測や一定の前提(仮定)等を基に記載しており、当行の将来の業績を保証するものではなく、さまざまなリスクや不確実性を内包しています。